

2026年度 慶應義塾大学 一般選抜  
総合政策学部 小論文 出題意図

本小論文は、過去の知の蓄積にアクセスする力、現在の社会に対する問題意識を踏まえた分析力、問題解決のための構想力や未来に向けた発想力を問うものです。

問1は、社会との接続の観点から知識人の役割やあるべき姿を論じた4つの論考（資料1から資料4）を読んで要約することにより、過去の知の蓄積にアクセスする力を問いました。これらの論考を読み、大学で学び知識を得ることによって、受験生自身が、どのように社会と接続するのか、社会に貢献できるのかのイメージを持つことも期待しています。

問2は、約150年前に福澤諭吉がいかに社会の課題を捉え、人々を先導したのかを理解した上で、これを参考にしながら、今の時代の社会課題を捉える力を問う問題です。福澤諭吉の考え方（資料5）を参照し、受験生自らが持つ社会に対する問題意識を言語化し、その重要性を論じる力を問っています。

問3は、問2で論じた社会課題に、受験生自らがどう向き合うのか、どのように社会と接続し、社会を先導していくのかの構想力や発想力を問う問題です。その際に、総合政策学部の加藤寛初代学部長が論じた学部創設の理念（資料6）を参照しながら、本学部での学びをイメージし、社会課題の解決にいかに関与できるかを論じられることも重要です。

総合政策学部では、過去の知の蓄積に学びながら、現実の社会と関わり、より良い未来の創造に向けて社会を先導することのできる学生を求めています。本年度の小論文に取り組んでくれた皆さんが、いつか共に未来を創る仲間となることを切に願っています。

以上